

平成 25 年 6 月 20 日

堺市議会議員各位

文化観光局長

企画展「晶子さんとその時代」 —むかしの「くらし」をのぞいてみよう—を開催します

与謝野晶子文芸館では、7月13日(土)から9月8日(日)まで企画展「晶子さんとその時代」—むかしの「くらし」をのぞいてみよう—を開催します。当館では、毎年夏休みに企画展「晶子さん」シリーズとして与謝野晶子に興味を持ってもらえるよう親しみやすいテーマを取り上げてきました。シリーズ7回目となる本展では、与謝野晶子の活躍した時代の「暮らし」を紹介いたします。

記

1. 企画展名称 企画展「晶子さんとその時代」—むかしの「くらし」をのぞいてみよう—
2. 会 期 7月13日(土)～9月8日(日)
3. 会 場 堺市立文化館 与謝野晶子文芸館
〒590-0014 堺市堺区田出井町1-2-200 ベルマージュ堺式番館
(JR阪和線「堺市」駅下車 徒歩約3分)
電話：072-222-5533 FAX：072-222-6833
4. 開館時間 午前9時30分～午後5時15分(入場は午後4時30分まで)
5. 休 館 日 月曜日(休日の場合は開館)、休日の翌日(翌日が土・日・休日の場合は開館)
*展示替臨時休館日…8月6日(火)
6. 観 覧 料 一般500円、高校・大学生300円、小・中学生100円
(アルフォンス・ミュシャ館もご覧いただけます)
*小学生未満・65歳以上・障害者手帳をお持ちの方は無料。
*20名以上の団体は割引があります。
7. 主 催 (公財)堺市文化振興財団 堺市立文化館
8. 展示資料数 約60点

9. 展示概要

- ①晶子さんの作品に見る「くらし」
- ②晶子さんの生活
- ③晶子さんの出産・子育て
- ④晶子さんのお出かけ—衣—
- ⑤晶子さんのお料理—食—
- ⑥晶子さんの書

本企画展では、晶子愛用の品々や当時の生活道具から、晶子がどんな日常生活を送っていたかを紹介します。鞍馬寺(京都)所蔵の晶子が使っていた置棚や硯、筆をはじめ、自筆短冊や原稿など約60点を展示し、多忙な晶子がどのような「生活」を背景に作品を生み出したかを明らかにする機会としています。

晶子は夫寛と共に11人もの子どもを育てながら、多くの作品を世に送り出しました。自宅で仕事をする以外は、当時の女性たちと同じように晶子も台所に立って料理や後片付け、洗濯や掃除など家事全般を行っていました。当時は、今の時代と違い電化製品も少なく家事のほとんどを手作業で行っていたので想像以上に時間がかかっていたことでしょう。そういった家事の合間や子どもを寝かしつけた後に多くの仕事をこなしていたのです。多忙な日常生活や当時の「生活」についての不満や改善すべき点などを書いた感想を多く残していますが、家事を「婦人のなすべき仕事の一つ」と考え興味深く怠らざに行っていたことはあまり知られていません。

【主な展示資料】

- ・愛用の置棚(鞍馬寺蔵) ※写真あり

- ・友禪の被布(鞍馬寺蔵) ※写真あり

晶子が友禪の着物を子どもたちのために仕立て直したもの。「被布」とは着物の上に羽織る上着のこと。

愛用の置棚(鞍馬寺蔵)



友禪の被布(鞍馬寺蔵)



10. 与謝野晶子について

与謝野晶子（1878-1942）は、近代文学史を代表する歌人として有名で『みだれ髪』をはじめ生前に23もの歌集を出版しています。また「君死にたまふこと勿れ」などの詩や『源氏物語』の現代語訳、女性の権利に焦点をあてた評論などの執筆、さらには、文化学院の創設に関わるといった教育活動にも力を注ぎました。与謝野鉄幹(寛)の妻であり、11人もの子どもを育てた母でもあります。

11. お問い合わせ 文化観光局 文化部 文化課
担当者：曾原 （内線）4635
外線：228-7143 FAX：228-8174